令和５年１２月２０日
（２０２３年）

保護者の皆様

吹田市立山田第一小学校
校　長　速水　素子

令和5年度　全国学力・学習状況調査の分析について

本年度の4月に6年生を対象として「令和5年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語・算数に限られております。また、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。対象となった6年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導方法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にしていただきますようお願いいたします。

1　教科に関する調査の分析

(1)国語《概要》

本校児童の平均正答率は全国平均値よりやや高い傾向でした。「読むこと」の正答率が全国値より大きく上回る一方で、「書くこと」については全国値を下回り課題が見られました。また、「言語に関する事項」は全国値よりやや低い傾向にあり、課題が見られました。無回答率が多いことにも課題が見られました。

《各領域における成果と課題》

話すこと・聞くこと

・「必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことを捉える」ことが全国値を上回り、全体ではよくできていました。

書くこと

・「図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き方を工夫する」ことは、全国値を下回りました。書く領域以外の記述式の問題の正答率は全国値をやや下回っており、課題が見られました。

読むこと

・「目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約する」ことは、全国値を上回りました。
・「目的に応じて必要な情報を見つける」ことは、全国値を大きく上回っていました。
・「文章を読んで記述に基づいて自分の考えをまとめる」ことは、全国値をやや上回りました。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

・「送り仮名に注意して、漢字を文章の中で正しく使う」ことは、全国値を下回っていました。
・「情報と情報の関連や語句と語句の関連を理解し活用する」ことは、全国値よりやや下回っていました。

今後の国語の改善点について

「読むこと」の正答率が全国値を大きく上回っていることは、日頃の指導や研究の成果だと肯定的にとらえています。今後は、「書くこと」を中心に本校の研究を進め、思考ツールを指導していくことで、作文の構成を意識して自分の考えを文章に書き表せるようにしていきます。

〇各学年に応じて、報告分や説明文の書き方を指導し、練習を繰り返すことで書くことに慣れるよう授業を工夫します。そのために、研究授業で「書くこと」を意識した授業研究を実践していきます。
〇作文の基本となる、文法に関する簡易なワークプリントを使って、各学年に応じて日常的に指導します。
〇朝帯の時間を活用し、各学年に応じた週１回の「読解タイム」を続けていきます。
〇漢字や文法といった基本的な言語に関する項目を、日々の授業で丁寧に取り組みます。
〇学年に応じて国語の様々な文章に触れ、考える機会をつくります。

(2)算数《概要》

本校児童の平均正答率は全国平均値を上回る結果でした。すべての領域の正答率が全国値より上回っており、特に「図形」や「変化と関係」については大きく上回りました。全国値を下回る領域はないものの、全体としては記述式の正答率が全国値でも本校でも低く、書き表す問題に課題が見られました。また、全国値より無回答率が多いことにも課題が見られました。

《各領域における成果と課題》

数と計算

・「乗法の計算」「～以上の理解」については、全国値を大きく上回っていました。全国値より上回っているものの「二位数÷一位数の筆算について、図を基にそれぞれの段階の商の意味を考える」ことについては、正答率が低く課題がみられました。

図形

・「正方形の意味や性質を理解する」ことは全国値をやや上回っていました。「正三角形の性質の理解」「高さが等しい三角形の底辺や面積の関係について記述すること」については、全国値より大きく上回っているものの、正答率が低く課題がみられました。

変化と関係

・「伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取ること」は、全国値を上回っていました。

・「百分率で表された割合を理解すること」については、全国値を上回っているものの、正答率が低く課題が見られました。

データの活用

・「表から～以上を理解すること」は、全国値を上回っていました。

・「複数の棒グラフを組み合わせ、違いを記述すること」については、全国値をやや下回り課題が見られました。

今後の算数の改善点について

・全体的に知識技能面については、これまで取り組んできた朝帯の時間や授業、宿題の練習問題など、基礎的な取組の成果が出ていると考えます。今後も継続的に取り組んでいきます。

・「資料を読み、必要な情報を抜き出す問題」、「見つけた情報を活用し、既習の数学的な用語を入れて自分の考えをまとめる問題」に課題が見られるため、このような問題に計画的に取り組みます。

・国語と同様に無回答の多さが目立ちました。問題文を読み切れない、理解できないといった学力の問題以前に、そもそも最初からあきらめている児童が多いのでは、と考えています。難しい問題にチャレンジすること、最後までやりきる達成感など、日々の授業で自信をつける活動をしていきます。また、できないことが恥ずかしいと思わないような学習風土づくりなど、学級づくりと合わせて取組を進める必要を感じています。

2 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

(1)学習環境・生活環境について

生活について

・「毎日朝食を食べている」と肯定的に回答した児童は、全国値よりやや高い傾向にありました。また、「まったく食べていない」と回答した児童も、全国値より低い傾向にあります。

・「毎朝同じ時間に起きる」「毎日同じ時間に寝る」「毎日朝食を食べている」と肯定的に回答した児童は、全国値より高い傾向にありました。

・「学校の授業時間以外に、普段、1日あたりどれくらいの時間、勉強していますか」という質問に、「4時間以上」「3時間～4時間」と回答した児童は、全国値より高い傾向がありました。一方で「まったくしない」と回答した児童は全国値より高い傾向がありました。

・「学習塾の先生や家庭教師の先生に教わっていますか」という質問に、肯定的に回答した児童が全国値より高い傾向があり、主に「予習」をしている児童が多いことがわかりました。

学校生活

・「学校に行くのは楽しい」と肯定的に回答した児童は全国値とほぼ同じぐらいでしたが、強い肯定は少ない傾向がありました。
・「友達関係に満足している」と肯定的に答えた児童は全国値より低い傾向がありました。
・「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人に相談できますか」という質問に対し、肯定的な回答は全国値とほぼ同じぐらいでしたが、強い肯定は少ない傾向がありました。
・「先生はあなたの良いところを認めてくれると思う」という肯定的な回答は、全国よりやや低い傾向がありました。

学習について

・「5年生までに受けた授業で、PC・タブレッドなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」という質問に、「毎日」、「週3回以上」と回答した児童が全国値より高い傾向にありました。
・「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか」という質問に、「発表していた」と肯定的に回答した児童は全国値を大きく上回っていました。

読書について

・「学校の授業以外に、普段一日どれくらいの時間、読書しますか」という質問に上限の「2時間以上」と回答した児童が、全国値より少ない傾向がありました。
・「読書は好きですか」という質問に肯定的に回答した児童が全国値より低い傾向があり、否定的に回答した児童は全国値より多い傾向がありました。

自分自身について

・「自分には、よいところがある」と肯定的に回答した児童は、全国値より下回っていました。
・「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ」と、ほとんどの児童が肯定的に回答しました。
・「人の役に立つ人間になりたい」とほとんどの児童が肯定的に回答し、全国値を上回っていました。
・「人が困っていたら助ける」と肯定的に回答した児童は、全国値をやや下回りました。肯定的な回答も積極的に助けると回答した児童が全国値より低い傾向がありました。
・「将来の夢や目標を持っている」と肯定的に回答した児童は、全国値を下回っていました。

児童への生活・学習アンケートの結果について

・生活については、各家庭のご協力で規則正しい生活を送れていることがわかりました。家庭学習については個人差が見られるので、引き続き家庭学習支援をしながら、学校以外での学習の定着に努めます。
・学校生活については、肯定的な回答は多いものの、積極的に肯定する児童が少ない傾向がありました。学年集団の特性もありますが、主体的な児童を増やしていく必要を感じました。学校生活を充実させるためには、児童が意欲的に参加できる授業展開を工夫する必要があります。さらに教科の授業だけでなく、特別活動などで集団づくりを意識した取組を行い、達成感を積み重ねていくことが大切です。楽しいと思うことを集団で共有する学校生活に努めます。
・学習については、GIGAスクールで導入されたタブレットを、日常的に使っていることがわかります。引き続き効果的にタブレットなどのICT機器を学習の適切な場面で活用し、児童のICTスキルを高めていきます。
　また、学習の発表場面では、昨年度まで授業研究で取り組んできた、人に伝える力を育てる取組の成果が現れていました。今後も協働的な学びを意識して学習を進めます。
・読書については、最も学習の課題が見られたところでした。今後は読書活動の推進に努め、本を身近に感じられる環境づくりや読書習慣を作る取り組みを進めていきます。

・自分自身について、本校の児童の自己肯定感は全国値より低い傾向でした。学校では、授業で友だちの良いところを褒める場面を設定したり、自分の持ち味を考える授業をしたりして、自分のいいところを再認識することが必要だと考えます。教師自身もひとりひとりの児童の良さを認め、積極的に伝えていくよう心がけていきます。

また、いじめについてはよくない、人の役に立ちたいと捉える児童がほとんどでした。しかし、困った人を助けるという行動につながらない児童が多いようです。今後もいじめ予防授業の取組を進め、どんな行動をとることが大切なのか意義を理解するだけでなく、日々の学校生活の中で行動を促し、行動できたことを認めるよう心がけます。また、コロナ禍で異学年交流など人と関わる場面が少なくなっていたので、人とかかわる体験を増やし、かかわることで得られる小さな達成感を低学年から積み重ねていきます。

いじめにあったときに、学校の先生に相談できるか、というのも大切なことです。今回の結果では、全国値より先生への相談については低い傾向がありました。今後も教職員が意識して、相談しやすい関係づくりや雰囲気づくりをしていく必要があります。児童の話は丁寧に聞くことで、先生と「話せて良かった」という経験を増やしていきます。毎朝の「デイケン」も活用しながら、今後もアンテナを高くして児童に寄り添い、いじめのない集団づくりに努めてまいります。

３　おわりに

今年度新型コロナウィルスが感染症5類となり、学校の教育活動の制限はなくなりました。学校行事や地域行事も今年度より通常どおりになってきています。今回の全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、教職員一同、より質の高い教育活動を目指し、精進してまいります。ともに児童の教育に携わるパートナーとして、ご家庭と協力してまいりたいと思いますので、ご協力をよろしくお願いいたします。